



令和8年10月26日

文化推進室

文化賞受賞者が決定しました！

—川口市文化三賞表彰式・川口市青少年文化活動奨励賞表彰式—

川口市文化三賞（川口市文化賞、川口市芸術功労賞、川口市芸術奨励賞）および川口市青少年文化活動奨励賞の表彰式を下記のとおり開催します。

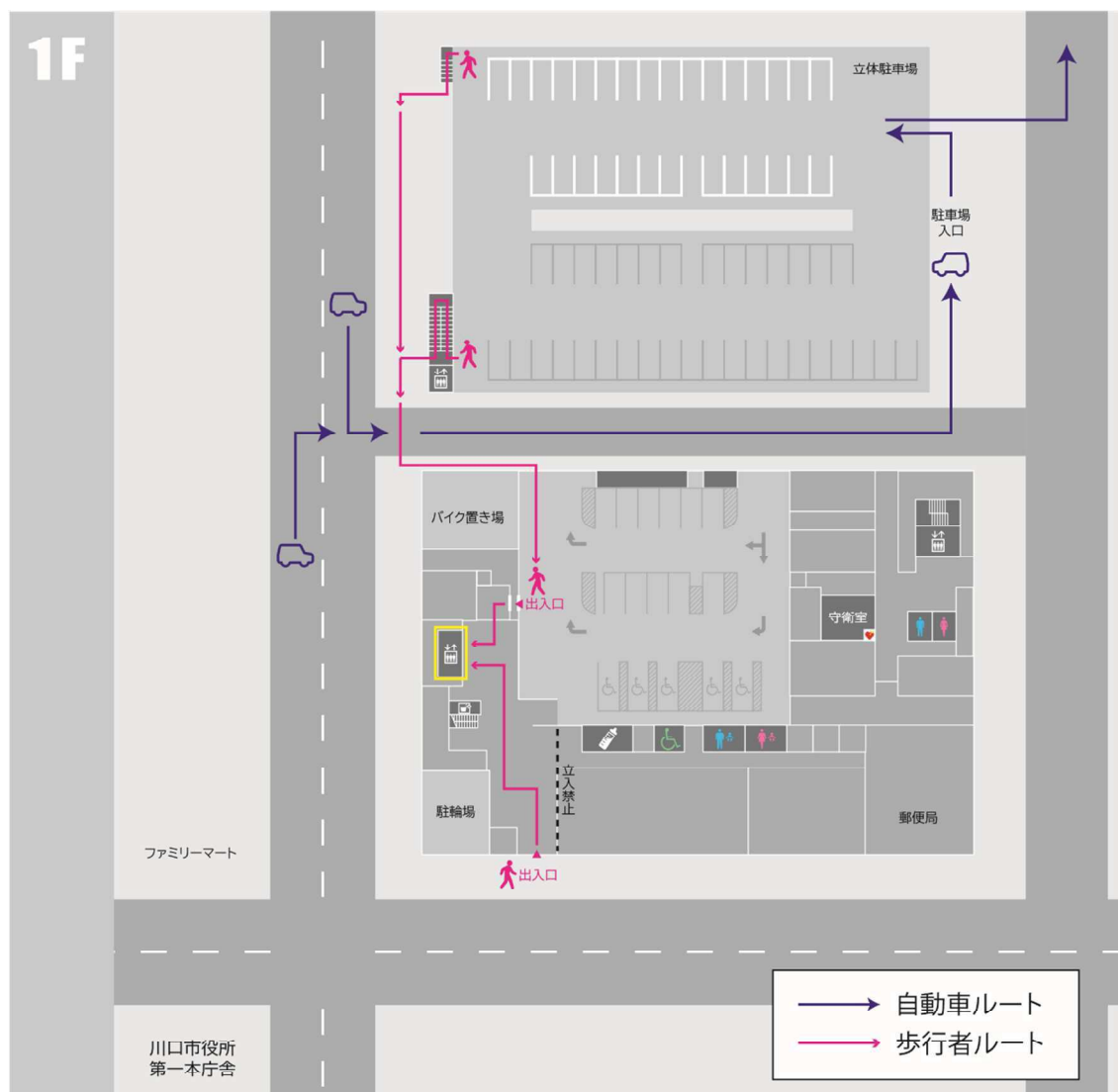
記

1 日 時 11月3日（祝）13：30～14：30（予定）

2 場 所 川口市役所第二本庁舎6階 2601会議室

3 その他 閉庁日のため、屋外エスカレーター及び2階入口は利用できません。

第二本庁舎案内図



※当日は、案内板をお出ししますのでエレベーターで6階へお上がりください。

表彰式

- 開会
- 国歌・市民歌
- 主催者あいさつ
- 来賓あいさつ
- 表彰
 - (1) 川口市文化賞
 - (2) 川口市芸術功労賞
 - (3) 川口市芸術奨励賞
 - (4) 川口市青少年文化活動奨励賞
- 閉会
- 記念撮影

川口市民歌

朝にひぐれに 幼きあの日
キュウボラかぞえて 君と僕
機械の響きに はずんだ胸の
リズムはいまでも 生きている
君よこの日も 語りたまえ
たのしく未来を たのしく未来を
あふれる あふれる 幸せを……

各賞の概要

川口市文化賞

芸術文化の振興、伝統文化の継承・保存、地域文化活動の振興のいずれかの分野において、貢献された方を選考し表彰するもの。前身は、昭和58年に創設され23回続いた「大野元美記念文化賞」。平成18年度に名称を「川口市文化賞」に変更し内容を引き継いだもの。

川口市芸術功労賞

芸術文化の活動歴が長く、創作等により顕著な業績をあげた方や、長年にわたり文化団体の運営に従事し文化団体の育成などに貢献した方、または文化活動の指導を行い市民の文化活動の発展に貢献し、その功労が顕著である方を選考し表彰するもの。

川口市芸術奨励賞

文学・美術・音楽・舞踊・演劇・映像・伝統芸能・生活文化・その他の9分野での芸術文化活動において優れた成績を取め、将来を嘱望され今後益々の活動が期待される方を選考し表彰するもの。

川口市青少年文化活動奨励賞

川口市内に在住・在学する小・中・高等学校の児童・生徒または所属団体のうち、文化芸術の分野において顕著な活動をし、他の模範となる方を選考し表彰するもの。



主催：川口市

問合せ先 〒332-8601 川口市青木2-1-1 川口市役所 文化推進室 048-258-1116

川口市 文化三賞表彰式

川口市青少年文化活動奨励賞 表彰式

2026.11/3 **火** 開式
祝 13:30

川口市役所 第二本庁舎 6階 大会議室

川口市文化賞 青木 邦真氏

川口市芸術功労賞 浅野 都氏

重田 智子氏

中村 勇子氏

矢島 祥子氏

川口市芸術奨励賞 小林 万里子氏

川口市青少年文化活動奨励賞

第21回 川口市文化賞



青木 邦真（芸術文化の振興／美術・彫刻）

青木氏は、川口市在住の彫刻家であり、2025年に現代クラフトの最高峰とされる国際アワード「LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2025」において見事大賞を受賞されました。その卓越した作品の数々は国内外で高く評価され、アーティストとしての実力が広く認められています。大学在学中より現在に至るまで、数々の展覧会や公募展において多数の受賞を果たし続けておられます。また、教育者としても長年にわたり後進の育成に尽力され、高等学校での美術・デザイン指導や大学での講義を通じて、次世代のクリエイター教育に大きく貢献されています。さらに、川口市政においては、文化芸術審議会委員、都市デザイン審査委員、社会教育委員、川口市美術展審査員などを歴任し、地域文化の振興と美術の発展を牽引してこられました。世界の舞台で活躍する一方で、地元・川口に深く根差した活動を続けられており、本市の文化芸術発展への貢献は極めて大きいものであります。

第18回 川口市芸術功労賞



浅野 都（文学／俳句）

浅野氏は、30年以上にわたり俳句の創作と研鑽に励み、本市の文学・俳句界を牽引してこられました。その卓越した活動実績は顕著であり、昨年2025年には、埼玉文学賞の俳句部門において、最高賞である「正賞」を受賞されました。過去にも準賞を2度受賞されるなど、長きにわたるたゆまぬ研鑽と着実な歩みが結実したものであり、その優れた創造力と俳句への熱意は、多くの人々に感動と共感を与えています。また、個人の創作活動にとどまらず、市の俳句連盟理事や地域俳句団体の運営委員としても要職を務め、地域の俳句文化の振興と後進の育成に尽力してこられました。長年の卓越した表現活動により本市の文学界に大きな足跡を残されるとともに、地域文化の発展に多大なる貢献をされました。



重田 智子（舞踊／新舞踊）

重田氏は、平成2年に舞踊指導の拠点自ら立ち上げて以来、舞踊芸術の振興と地域文化の発展に情熱を注ぎ続けてこられました。平成16年からは川口市新舞踊団体連合会の会長として、後進の育成や組織運営に長きにわたり尽力され、指導者として多大なご活躍をされています。また、同年には東芝EMI舞踊協会の講師に就任され、市内外における専門的な指導を通じて舞踊文化の普及に大きな役割を果たしてこられました。一方で、地域に深く密着した活動にも精力的に取り組まれており、公民館での指導や盆踊り、各種ボランティア活動を通じて、地域住民が文化芸術に親しむ機会を長年にわたり提供し続けておられます。また、市文化団体連合会の役員としても長年にわたりその重責を担い、組織運営の面からも本市の文化的発展を支えてこられました。

中村 勇子（伝統芸能／大正琴）



中村氏は、昭和50年に自ら大正琴指導の拠点を立ち上げて以来、51年もの長きにわたり、後進の育成と大正琴文化の継承に尽力されています。地域の公民館活動を通じたサークル運営においては、住民に音楽を楽しむ喜びを提供し続けるとともに、温かな交流を通じて地域コミュニティの活性化にも貢献されました。また、市内の介護施設への慰問演奏や地域行事への参加など、多岐にわたるボランティア活動にも精力的に取り組み、音楽の力で社会福祉の向上に寄附してこられました。その活動は、個人の演奏や指導だけにとどまらず、平成2年には市文化団体連合会に加入し、現在に至るまで長年にわたり役員を務めるなど組織運営の面からも支え続けてこられました。大正琴という伝統芸能を次世代へと繋ぐため、半世紀以上にわたり情熱を注ぎ、地域文化の振興に多大な貢献をされました。



矢島 祥子（伝統芸能／大正琴）

矢島氏は、平成6年に自ら大正琴の指導拠点を立ち上げて以来、その普及と地域文化の振興に長年にわたり情熱を注いでこられました。指導拠点の結成と同時に市文化団体連合会に加入され、役員として組織運営に携わりながら、地域文化全体の発展を力強く牽引してこられました。また、地域活動にも深く尽力され、各地区の公民館や福祉施設でのボランティア演奏をはじめ、市内の小・中学校での大正琴体験授業を通じて、子どもたちに伝統楽器の魅力を伝え、次世代への継承に心血を注いでこられました。その活動の場は県内外のみならず、海外にまで広がり、数多くの演奏実績を通じて、国際的な文化交流の架け橋となられています。

第40回 川口市芸術奨励賞



小林 方里子（美術／テキスタイル）

小林氏は、川口市を拠点に活動するテキスタイル作家として、優れた芸術性と独創性を持った作品を数多く制作しておられます。国内外のアワードで受賞・入賞を重ね、2025年には大阪・関西万博のアメリカ館において共同制作作品が展示されるなど、国際的にも高い評価を受け、幅広く活動するテキスタイル作家として注目を集めておられます。川口市立美術館の開館プレ事業「渡り鳥アートプロジェクト」においては、市民参加型の創作体験を促進し、その作品の展示を通じて市民の創造力を社会に発信されました。また、芸術を通じた世代間交流の先駆けとして多大な功績を残されるとともに、地域に新しい風を吹き込まれてきました。今後も、作家としての豊かな創造力と、市民を巻き込んだ企画や指導力を発揮され、本市美術界のさらなる発展に大きく寄与されることが期待されます。

第20回 川口市青少年文化活動奨励賞



古郷 傑（岸川中学校2年生 美術／絵画）

古郷さんは、令和7年度埼玉県郷土を描く児童生徒美術展において、特選埼玉県知事賞を受賞しました。受賞作品では、光や影を中心に、情景を独特な視点で捉え、彩色や筆遣いの工夫をしながら表現した制作をしており、その他の美術展においても入選するなど、その成果は高く評価されています。豊かな感性とたゆまぬ努力により着実に実績を積み上げており、今後もさらなる受賞が期待されます。



千葉 皇清（元郷中学校3年生 音楽／声楽・クラリネット）

千葉さんは、吹奏楽の激戦区である埼玉県において、日本吹奏楽指導者協会埼玉県部会主催の管打楽器ソロコンテストにおいて、銅賞を受賞しました。また、声楽コンクールにも参加するほか、学校外においてもジュニア吹奏楽団に所属するなど、積極的に活動し豊富な経験を積んでいます。声楽では、ソプラノの音域を生かした豊かな表現力を発揮し、楽器演奏では、楽器の雰囲気に応じた音色づくりを研究するなど、自身の表現力の幅を広げる努力を続け、他の生徒の模範となっています。



中村 凜（幸並中学校 令和8年3月卒業 美術／絵画）

中村さんは、全日本学生美術展において、2年連続で個人賞を受賞するなど、優れた実績を残しています。目頃の制作姿勢は大変真面目で、独自の豊かな世界観を持つその表現力は、写真にこだわらない新しい視点を部員全体に広げ、周囲の生徒たちにより影響を与えています。



山下 朋也（幸並中学校 令和8年3月卒業 美術／絵画）

山下さんは、全日本学生美術展において、令和6年度の佳作受賞に続き、令和7年度では特選を受賞するなど、優れた実績を残しています。また、中学3年時には、一般公募展である日本芸術家協会展「JAG展」において最高位の金賞を受賞するなど、卓越した描写力と高い制作力を発揮しています。